

地域介護福祉専攻における実習指導演習の一考察

野 中 和 代・鈴 木 とみ子

寺 山 聖 子・清 宮 宏 臣

Study of community care service a trial of preliminary training for effective nursing practice

1. はじめに

介護福祉士養成教育が1988年より始まり、今年で13年目を迎えようとしている。養成施設校も年々増加し、1998年度では介護福祉士の登録者数は16万6,251人であり、養成所は369課程で定員は2万1,676人となる。第11回介護福祉士国家試験の合格者は2万758人であり、毎年約4万人が養成されている現状である。このことから介護専門職としては質が問われるため、教育の質を高め、介護福祉士の質を高めることが最大の課題となる。

また、社会福祉制度も福祉関係八法改正・新ゴールドプラン・公的介護保険制度も1999年4月より導入となり転換期にあって、大きく動いている。

日本介護福祉士養成施設協会では、「介護福祉士実習指導マニュアル」を1997年2月に新しく改訂版を発行し、各学校での実習状況に応じ、内容も共通理解の資料として用いる為の「マニュアル」として作成している。

実習の授業形態や実習体制は各学校によりそれぞれ特徴があり、指定時間数の活用方法は各学校に任されている。本校は実習指導演習を授業科目と同様に扱い、実施してきた。2001年の3月で短期大学2年間の完成年度を迎え、Ⅰ段階・Ⅱ段階・Ⅲ段階と段階別の施設現場実習も終了した。新しいカリキュラムに向けて実践していく為に、今まで行って来た実習指導演習をふり返り、考察し、新しい年度につなげて行きたい。

2. 教育課程における実習指導演習の位置づけ

介護福祉士養成カリキュラムにおける『介護実習指導演習』の位置づけは、体験を通して、学んだ知識・技術・態度を具体的かつ实际的に理解できるように指導する、とあるように、450時間に及ぶ介護実習を有効に展開するための導入教育としての意味がある。実習の実際がイメージできる教材を、できるだけ具体的に提示する。

◇授業目標 1年次前期 1単位 30時間

目標；介護は相手の人格や性格を分析しながら個人の社会生活を保障して自立に向けた援助行為

であることを前提として、

①実習の重要性について理解させる

②学習、学校内で学んだ知識・技術・態度を具体的かつ实际的に理解できるよう指導する

◇授業目標 1年次後期 1単位 30時間

目標；①学内での学習が施設実習に直接役立つことを指導し、理解させる

②実習記録の実際を指導し、目的意識の明確化を学ばせる

③学生個々の準備状態より個別指導をする

④実習前の直前指導を徹底させる

平成12年度よりカリキュラム改正により、時間数が増加した。平成11年度入学生の実習指導演習時間数は2単位60時間、平成12年度入学生の実習指導演習数は3単位90時間である。

平成11年度入学生は2年次に実習指導演習の時間は、カリキュラム上規程されていないため、授業科目の履修規格外として、20時間設定し、授業を行った。

◇授業目標 2年次前期

目標；①講義・演習・学校内実習で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的な役割を指導し、理解させる

②利用者のニーズに適した援助をするための介護診断を指導し、理解させる

③介護過程に沿った介護記録の意識を指導し、理解させる

3. 授業の概要

3単位30時間の授業の概要は表1に示す。授業形態としては、現代学生の気質を考え、授業を一方的に指導するのではなく、学生が主体的に学びとれるグループワーク・体験学習を多く取り入れた。

表1 「実習指導演習」の概要

年次	月	授業の主題	実習及び事前指導	授業以外の教員の活動
1 年 次	4月	・ガイダンス ◎自己紹介(スピーチ) ・実習意義、目的、専門科目との関連 ・グループワークの効果と進め方		
	5月	◎実習施設と利用者の理解 ◎対象の理解(聞き取り調査) ◎コミュニケーションの技法		・学生個人カードの作成 ・実習配置の為の学生通学路、方法等の調査
	6月	◎対象の理解(視覚障害者) ◎信頼関係を築く為のコミュニケーション ・実習の事前準備		・実習施設訪問(★)
	7月	◎実習の心得 ・前期試験		・実習目標、記録の検討
	8～9月	◎ボランティア体験		・実習事前準備に用いる書類等の検討
	10月	・ガイダンス ◎個人票の作成 ◎ボランティア体験発表(全員) ・実習前に達成すべき課題	・ボランティア体験レポートの提出 ・写真撮影	・ボランティア体験レポートの添削 ・実習配置表の作成 ・個人票の添削指導
	11月	◎実習記録の実際(施設の概況、日誌、学びと課題)	・模擬実習記録の提出 ・個人票の提出	・模擬実習記録の添削 ・実習施設訪問(★)
	12月	・介護福祉実習段階について ・実習の評価及び技術の経験について ◎実習前達成課題、実習目標の立案 ◎事前準備及び技術経験のチェック ・施設毎の事前指導(★) ・事前訪問	・介護技術経験録の提出 ・実習前課題、目標の提出 ・事前訪問のアポイント ・実習施設迄の交通下見	・課題、目標レポート指導 ・介護技術経験録の指導 ・実習施設訪問(★)
	1月	・実習の心得 ・カンファレンスについて ・実習記録の提出方法 ・後期試験	・事前訪問 ・腸内細菌検査 ・事前訪問報告書提出	・課題、目標レポート指導(★)
	2～3月	・実習オリエンテーション(★)	【介護福祉実習段階 90時間】 34ヶ所 特別養護老人ホーム 身体障害者施設	・巡回指導(★) ・巡回指導状況報告(★) ・介護過程記録様式の検討
2 年 次	4月	・ガイダンス ◎事後指導(★)	・レポート提出	・実習記録添削指導(★)
	5月	・介護過程 ◎事後指導(★) ◎介護過程の事例展開		・実習評価(★) ・実習配置表の作成
	6月	・介護福祉実習・段階について ◎実習目標の立案 ・実習記録の実際	・個人票の提出	・個人票の添削指導
	7月	・施設毎の事前指導(★) ・事前訪問について	・実習前課題 ・事前訪問のアポイント	・実習施設訪問(★) ・目標レポート指導
	8月	・実習オリエンテーション	・事前訪問 ・腸内細菌検査 ・事前訪問報告書提出	・実習施設訪問(★) ・目標レポート指導(★)
	9～10月	・実習オリエンテーション(★)	【介護福祉実習段階180時間】 27ヶ所 特別養護老人ホーム 【介護福祉実習段階180時間】 34ヶ所 特別養護老人ホーム 身体障害者施設	・巡回指導(★) ・巡回指導状況報告(★)
	11月	◎事後指導(★)	・レポート提出	・実習記録添削指導(★)
	2月			・実習評価(★)

◎演習 ★巡回指導担当教員

授業内容

ここでは、実際に行った授業の一部を紹介する。

1) 単元「実習施設と利用者の理解」

4 施設の資料とVTR(特養)鑑賞後グループワークを実施した。グループワークの内容は、施設の特徴・利用者の特徴・感じた事・疑問・その他とした。

一部抜粋したものを表2に示す。

表2 実習施設の理解（一部抜粋）

	施設の特徴	利用者の特徴	感じた事・疑問・その他
特養ホーム	<ul style="list-style-type: none"> みんなで住み込んで生活しているところ 入所者を常時介護している 協力病院がある 老人福祉法に定められた施設職員をおく 	<ul style="list-style-type: none"> 重度の人が利用 65歳以上で、常時介護必要とし、自宅で介護を受けられないお年寄 	<ul style="list-style-type: none"> 介護する場はいろいろあるなー。 保育園と老人ホームだけでなく、小・中・高の子供達と一緒に生活しても良いのではないかな。 今まで苦労してきた老人達にとって、老人ホーム、ディケアサービスは学校だと思う。今まで家族とともに生活してきた老人が、子供も独立し、夫、妻をなくし、一人暮らしをするようになる。そうすると孤独感が生じる。だからいろいろな施設で生活を送ることは良い事だ。第2の人生新しい人生を送ることは素晴らしい事。どんどん施設に入所し、楽しい生活を送れたら良いと思う。 どの施設も、利用者も職員も生き生きとしているように感じた。 資料には、利用者の様子は結構書かれていたが、職員や介護者の様子があまり書かれていなかったの、詳しく知りたいと思った。
養老ホーム	<ul style="list-style-type: none"> 老人ホームと保育園が一緒 子供と触れ合うので生きることがまえむきになる 高齢者100人 人と話すことの苦手な人でも、子供とは体でコミュニケーションをとっている ここは家族 	<ul style="list-style-type: none"> ねたきりはいない 65歳以上の高齢者 老いること、生きることのヒントが満ちている 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園と老人ホームが一緒になっていて素晴らしいと思った。お年寄りの方は張り合いがあり、充実感があると思う。ここでは、お年より自身が紙芝居を作って園児に話すなど積極的なのに驚いた。 役割があり、役に立っているということであれしいと思った。一人の人間として尊重されていると感じた。生きるエネルギーの循環が自然に根付いて、日々繰り広げられている。「老いる事、生きる事のヒントが満ちていた」と書いていて、良いなと思った。 其々の施設で必ず共通してあるが、その人たちに生きがい、生きる力を与える事、今までの老人ホームは、老人を「隔離」というイメージが強く、又事実。ただ生活だけをしていた。だがこの資料中の老人ホームは、生きる力を与え、どのように老いを迎えるか、これからどう生きていくかを考えさせ、実行させる自由のある生活をしていた。
デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で生活している人がときどき利用する 9:30~15:00 ・週2回 おおまかなタイムスケジュールがある 一人暮らしの老人の話し合いの場 職員が薬の世話や食事量の記録をする 世間体を気にする…外で有意義に生活できる 家族の身体的、精神的負担の軽減 看護婦、医師が高齢者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 体の自由が利く人 ゆとりがもてる 家族の安心感がある 自分でやる気をおこさせている 人を力づける元気 安心ノートを用いている 70才以上の老人が多い 人に合うから元気 	<ul style="list-style-type: none"> 役割があり、役に立っているということであれしいと思った。一人の人間として尊重されていると感じた。生きるエネルギーの循環が自然に根付いて、日々繰り広げられている。「老いる事、生きる事のヒントが満ちていた」と書いていて、良いなと思った。 其々の施設で必ず共通してあるが、その人たちに生きがい、生きる力を与える事、今までの老人ホームは、老人を「隔離」というイメージが強く、又事実。ただ生活だけをしていた。だがこの資料中の老人ホームは、生きる力を与え、どのように老いを迎えるか、これからどう生きていくかを考えさせ、実行させる自由のある生活をしていた。 世代間の交流があることは、お年よりは生きがいに結びつくのだと思う。普通の生活をしていて、家事などの役割があるとよい結果になることがわかった。ノーライゼーションを提唱していく方向性が理解できた。 自分の得意なことをすると生き生きとし、痴呆症状が和らぐとの事。好きなことがたくさんできる場が増えると良いと思った。 お年寄りがデイサービスをとても楽しみにしているので、もっと皆が自由に利用できたら良いと思った。 デイサービスは便利だが、利用者が多く、すぐ利用したい時に利用できず、又手続きや順番待ちがあって役所の対応が遅れている。
グループホーム	<ul style="list-style-type: none"> 1980年代にスウェーデンで創設された 8~10人で生活 ・6畳10室 痴呆症状がひどくなった人が少数人数で生活する 集団としてある目的をもっている 痴呆の症状をおくらせる目的 ダイニングキッチン、リビングルームがある 特養ホームの1室なのでスムーズに連携がとれる すぐに利用できない 役所の対応が遅れている 	<ul style="list-style-type: none"> 中等度、重度の痴呆 家事をすることで自分の役割をもたせている 明るい顔で余生を送っている 家庭生活が困難になった人が利用 	<ul style="list-style-type: none"> 世代間の交流があることは、お年よりは生きがいに結びつくのだと思う。普通の生活をしていて、家事などの役割があるとよい結果になることがわかった。ノーライゼーションを提唱していく方向性が理解できた。 自分の得意なことをすると生き生きとし、痴呆症状が和らぐとの事。好きなことがたくさんできる場が増えると良いと思った。 お年寄りがデイサービスをとても楽しみにしているので、もっと皆が自由に利用できたら良いと思った。 デイサービスは便利だが、利用者が多く、すぐ利用したい時に利用できず、又手続きや順番待ちがあって役所の対応が遅れている。

それぞれ施設の特徴が具体的に示され、利用者の特徴も4施設それぞれの個性ある利用者の状況が把握できている。

感じた事・疑問は学生の素直に思った気持ちを表現している。特に生きることの大切さや痴呆性老人の接し方、一人暮らしのお年寄りにとって人との出会いの大切さ等、学生にとっては始めて体験したグループワーク内容であり、まさに最初に出会った学習の場であったことは意義が大きく、実習につなげることになる。

2) 単元「実習の心得」

6時間を3回で実施した、単元「実習の心得」指導計画を表3に示す。

表3 指導計画

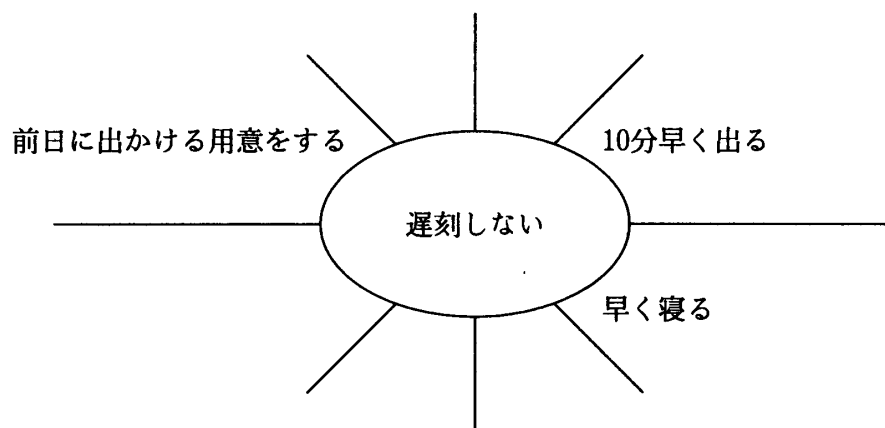
	時間	指導項目	指導内容・方法	留意事項
第1次	90分	1) 実習準備 2) 実習の心得	(1) 実習準備の意義 (2) 実習場所について (1) 実習の心得を学ぶ意義 (2) 実習形態について (3) 創造性の太陽シートについて (4) 心得の大目標について ①実習にふさわしい服装・身だしなみを整える ②利用者との信頼関係を築く ③指導者との良い関係をもつ ④実習生としてふさわしい態度をとる ⑤実習中、健康な生活を送る ⑥連絡・報告を正確に行う ⑦実習前の学習課題を遂げる ⑧実習場での約束事を守る (5) 個人ワーク	・目標達成の為にアイデアをたくさんあげさせる ・こんなことと思えるものもあげる ・考えられない時はヒントを与える ・全員提出させる ・提出されたシートは目を通し、次回返却
第2次	90分	1) 実習の心得	①グループワーク ・個人ワークで持ちよった内容を検討 (その際に根拠を出しあいながら検討) ②発表の準備 ・模造紙への貼付	・分担作業にならないように巡回指導する
第3次	90分	1) 実習の心得	①各グループで検討した事を発表(根拠を含めて) ②まとめ ③アンケート ・実習に向けて、心の準備の程度 ・目標達成の為に日々の中で第一歩を踏み出す行動	・発表、個人のシートに記入させる

1回目は「実習の心得を学ぶ意義」「学習形態について」「創造性の太陽」「心得の大目標8項目について」説明後、シートを用いて個人ワークを行った。

創造性の太陽とは、目標達成の為にシートであり、太陽の中に目標を書き込み、そして、その目標を達成するために効果があると思われるアイデアを太陽からさす光のように書き出して行く。アイデアはどんなことでも書き込み、発想を自由にめぐらせ、あらゆる可能性を検討して行く。この過程の中で学生の脳が耕されていき、目標達成にむけての心の準備が整ってくる。大切なことはここで思いついた目標達成の取りかかりを実際に行動に移すことであり、行動を起こさなければ何ごととも変わらないため、目標は遠くに見えても、まず第一歩を踏み出すことが必要であることを学ばせる。(図1参照)

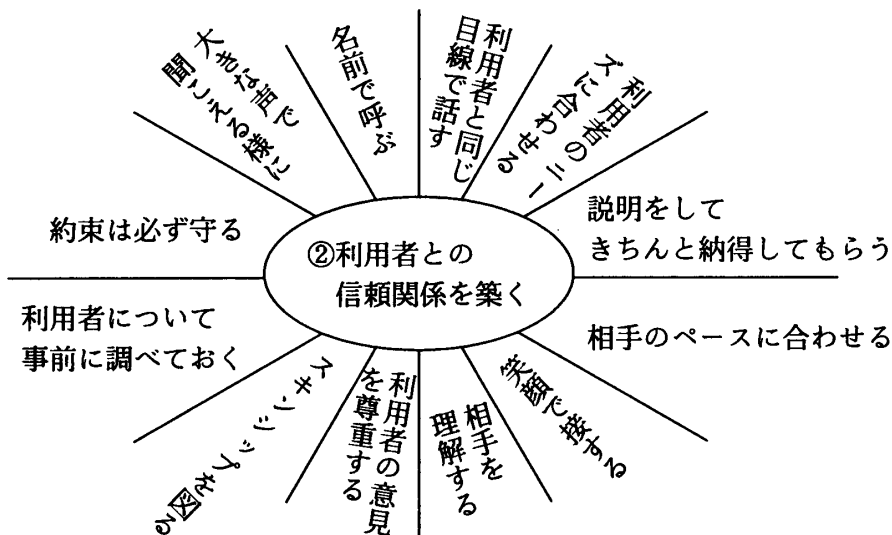
• ウィンターの「創造性の太陽」シート（図1）

（例）

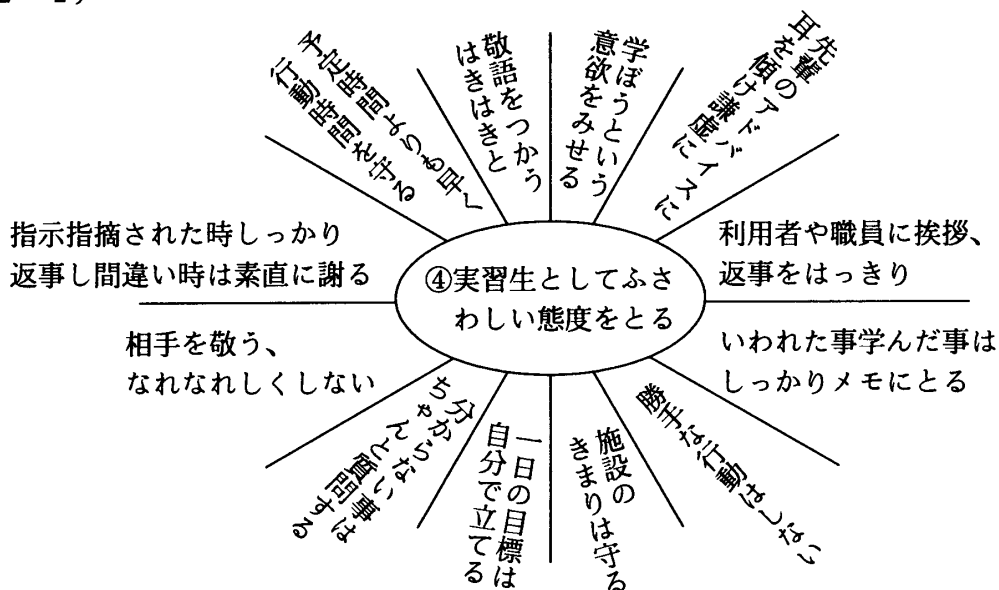


参考文献：「能力トレーニング」A. ウィンター&R. ウィンター著、酒井一夫訳、東京図書

• 結果を1つのグループから抜粋（図2-1）



（図2-2）

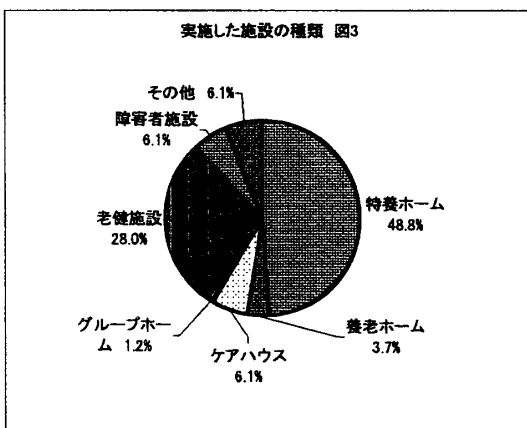


授業終了後のアンケートでは、99%の学生がワークを行うことで、大目標を達成する為の心の準備ができた。と答えている。なお、目標達成の為に日々の中で第一歩を踏み出す行動を3つあげてもらった結果、「普段から身だしなみに気を配る」「日頃からあいさつや敬語を使えるようにしておく」「3食しっかり食べ栄養のバランスをとる」「体調を整え、健康管理する」「ボランティアに参加して、経験をつむ」「家の手伝いをする」「5分前行動を心がける」「授業態度を改め、真剣にのぞむ」「何ごとにも積極的に取り組む」「講義・演習などを復習する」など、基本的な生活習慣から学習態度について多くあげられていた。また、各グループで作成したシートは、印刷し、各自にファイルさせ実習で活用させた。

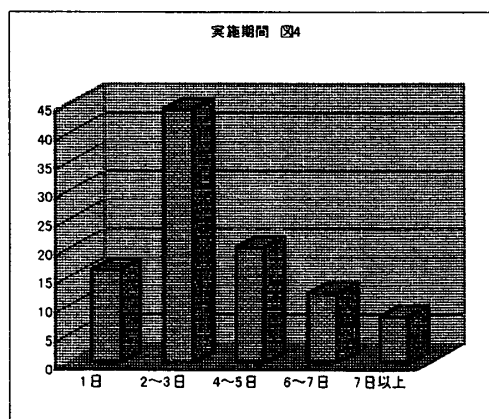
3) ボランティア体験

夏休みに実施したボランティアの体験を、授業で全員発表した後、質問紙による自由記載とアンケート調査を実施した。以下結果である。

(1) 実施した施設の種類 図3



(2) 実施期間 図4



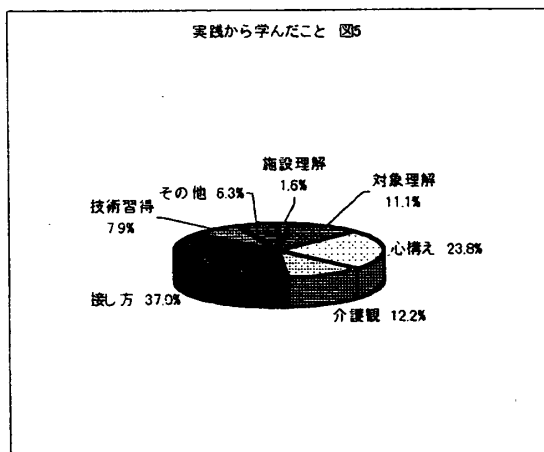
実施した施設は、第I段階の実習施設となる特別養護老人ホームが半数を占めているが、身体障害者施設は約0.5割と少ない。3割が老人保健施設で、ケアハウスでの実施が0.5割いた。これは、学生の居住地における施設の種類や数・施設側のボランティアの受け入れ状況が影響していると考えられる。実習に向けての対象及び施設を事前に理解するという目的から見ると、身体障害者施設についての学習内容を検討する必要があると思われる。

(3) ボランティアの内容について

ほとんどの学生が介護技術に関する項目を挙げていた。

介護技術項目別に見ると、《利用者の把握》ではコミュニケーションとバイタルサインのチェック、《環境整備》ではベッドメイキング、《日常生活行為》では、食事、配膳、水分補給、おむつ交換、衣服の着脱介助、紙の乾かし、車椅子での移動、《日常衣生活の拡大》ではクラブ活動・レクリエーション活動への参加、《その他》としてディサービスの送迎車による送迎、避難訓練、洗濯物のたたみ、清掃、草とりなどでした。この内容を見ると、学生は、既習の知識と技術を使いながら、日常生活援助を体験することで、自分の知識・技術の習得度を確認する機会になっている。

(4) 実践から学んだこと 図5



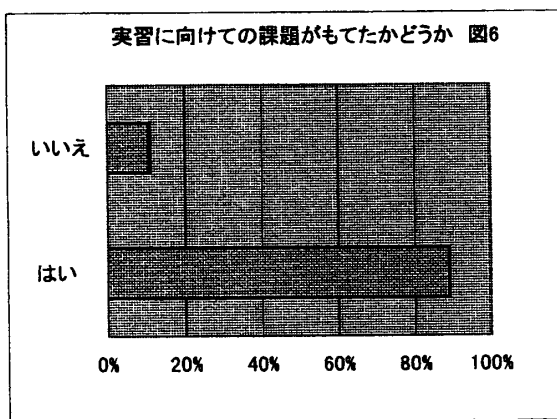
学びで一番多かったのは、「信頼関係をつくるには、名前を呼ぶことから始め、自分から積極的に話しかけていく」「思いやりや優しさをもつ」「言葉遣いは丁寧に、大きな声で」など、コミュニケーションを含んだ《利用者との接し方》について再認識している。

次に多かったのは、「基本的な知識や技術を身につけてかかわる」「素直な心、穏やかな気持ちでかかわる」「わからない事はそのままにせず聞く」「お互いに

自分の仕事を責任をもって行う」「利用者の一人一人の人格を尊重する」「時間を厳守する」「待っているのではなく、自分から行動する」など実習生としての態度や《介護者としての態度や心構え》である。また、「何でも手伝うのではなく、見守ることも大切」「利用者のことを一番にか考える」「介護は奥が深い」「家族との信頼関係をつくるのが大切」「その人の残存機能を生かす」「人間のQOL」など《介護観》を考える機会になっている。

利用者との始めてのかかわりから「お年寄りには、一人一人の世界がある」「自分が思っていた以上に孤独感がある」「一生懸命生きている」「弱い人ばかりではなく、自分でできる人もいる」など、《利用者の理解》を深めている。その他《施設の特徴》や《日常生活援助技術の習得》《介護の喜び》を実感し、実習への動機づけになっていると考える。

(5) 実習に向けての課題がもてたかどうか 図6



約9割の学生が第I段階実習に向けての課題がもてたと答えている。

(6) 実習に向けての課題

課題の内容は様々であるが、4)で述べた学びと関連している。「自分から積極的にコミュニケーションや行動がとれるように」「自分を豊にして、会話の内容を増したり深める」「その人の気持ちになって考え、行動できるようになる」「できなかった事や未熟だった

ことを復習する」「貪欲に学ぶ」など、各自が実習に向けての課題を持てている。

入学してくる学生の多くは日頃、高齢者や障害者を身近な存在として意識することがなく、また、福祉施設についての理解も乏しい。その学生達にとって、ボランティアの体験は介護福祉の実践の場を具体的にイメージでき、学習への意欲や実習への課題がもて、4ヵ月後の初めての实習を有効にするための導入として、効果があったと言える。

4) 単元「実習記録の実際」

記録の意義や方法を体験から学ばせたいと考え、実習の事前準備として、学生個々が提出したボランティア体験レポートを教材として、記録の実際を演習した。そして、模擬実習記録として提出させ、添削を行った。

5) 実習前準備について

実習への動機づけや実習前の学習を促す為に、「実習前に達成すべき課題」(資料1)、「実習目標の立案」(資料2)、「実習迄の個人チェック表」(資料3)、「施設事前訪問報告書」(資料4)の様式を作成し、指導した。

- (1) 実習前に達成すべき課題については、各課題について学生個人の計画、実施したことを記入。
- (2) 実習目標の立案については、第段階の実習指導要綱の目標にあわせ時間をかけて指導し、その後、学生個人として実習目標立案の作成を指導。(1)(2)については、巡回指導担当教員に提出し、再度指導を行った。
- (3) 実習迄の個人チェックについては、実習当日までの準備する項目を記載し、締め切り期日を守るために、自己のチェック欄を設けた。特に実習迄の準備と確認の欄は詳細に実施した。
- (4) 施設事前訪問について
 - ①教員による実習施設訪問
 - a) 核施設に短大の教育方針、実習指導要綱、実習方法等を詳細に説明し、実習がスムーズにできるように配慮した。
 - b) 学生の実習施設配置決定後も各施設へ学生個人カードと共に学生の特徴等も含めて再度訪問した。
 - ②学生による実習施設訪問
 - a) 施設グループ毎に事前にアポイントをとり、グループメンバー全員で施設の決められた日時に訪問させた。
 - b) 訪問後、施設事前訪問報告書を巡回指導教員に報告し提出させた。

〈実習前に達成すべき課題〉 (資料1)

氏名

- (1) 人を理解するための基礎的な知識を身につけておく。
- (2) 介護福祉士に必要な専門的知識・技術を身につけておく。
- (3) 実習施設の法的根拠を把握し、関連する福祉法を知っておく。
- (4) 実習の目的を十分に理解し、各実習施設ごとに自己の目標を設定し、限られた実習期間内で達成可能な目標を決めておく。
- (5) 自分が思ったこと、感じたこと、学んだことが、書くことにより表現できるようにしておく。
- (6) 自分自身が自立した生活ができているかを見直し、自分のことは自分でできるようにしておく。特に掃除、洗濯、買い物など、家庭での手伝いを通してできるようにしておく。
- (7) 利用者がどのような生活を送ってきたかを知っておく。たとえば、時代背景、流行歌、流行した服装などを知っておくと、利用者との話の接点となる。
- (8) 定期的に健康診断を受け、自己の健康管理に十分留意し、規則正しい生活を心がけておく。(腰痛予防を実施し、腹筋と背筋を鍛えておく。
- (9) 実習に持参するものを点検しておく。(社会福祉六法、参考図書類、実習記録簿、メモ帳、筆記用具、靴、エプロン、三角布等)

	計	画	実施したこと
1			
2			
3			
・			
・			

〈実習目標〉(個人) (資料2)

施設名 実習期間 学生氏名

総合目標		
	日々の目標	目標達成のための具体的方法
／		
／		
／		
・		
・		
・		

〈実習迄の個人チェック表〉 (資料3)

氏名

「責任を持ち積極的に行動しよう」

項 目	締切日	チェック	備 考
・個人票用の写真5枚(氏名明記) カラー	11/19		
・個人票の清書(11/19)と提出	11/25		
・実習要綱の熟読	12/2		
・健康診断の実施			
・腸内細菌検査の検体提出			
・実習前の課題表の提出	12/9		
・実習目標の立案と提出(個人)	12/9		
・事前訪問前の実習施設迄の交通手段等の下見	12/25		
・			
・事前訪問迄の準備と確認 *日時() *日時() *髪の毛 *靴 *携帯電話の電源 *服装	*集合場所() *集合場所() *爪 *挨拶の仕方 *確認事項	*メモ帳 *筆記用具 *実習要綱 *資料 *上履き	
・技術経験録の提出	1/15		
・事前訪問報告書の提出	1/21		
・			
・実習迄の準備と確認 *髪の毛 *靴 *携帯電話の電源 *服装 *上履き *下履き	*爪 *挨拶の仕方 *確認事項 *メモ帳 *筆記用具 *エプロン	*実習要綱 *参考図書 *その他の資料 *漢字辞典	
・実習記録の提出と発送			

〈施設事前訪問報告書〉 平成 年 月 日 提出者 _____ (資料4)

施設名

訪問日時 月 日 () 時 ~ 時

実 習 期 間	実習時間
実習プログラム	
実習前の課題参考図書	
毎日の実習日誌の提出 について	
実習時の注意事項及び 施設との約束事 昼食、支払方法	
持ち物について	
更衣室の所在	
そ の 他	

6) 事前指導について

介護実習Ⅰに向けて巡回担当教員に事前指導をお願いするために、事前指導の日時内容を提示した。資料は前もって配布しておき、事前指導がスムーズにできるよう配慮した。(資料5)

(資料5)

実習指導演習担当教員

介護実習Ⅰに向けての担当教員による事前指導に就いて

菊の香のゆかしい今日このごろ、忙しい日々をお過ごしのことと思います。

さて、大学祭も終わり、実習開始迄3ヶ月をきりました。先日のHRでは、実習に向けてのスローガンが『責任を持って、積極的に行動しよう!』に決定致し、学生達の志気が高まりつつあります。その反面、初めての实習への不安も多く見られます。

そこで、担当教員別に学生への事前指導を下記のように計画いたしましたので、万障繰り合わせの上、出席方々ご指導を宜しくお願い致します。

記

1) 事前指導

日 時	場所	指 導 項 目
12月10日(金) 13:20~14:50	中講義室	1) 実習グループの顔合わせ 2) 実習施設概況等の説明(パンフレットを用いて) 交通手段、指導者名、その他の情報提供 3) 実習への心構え、容姿、態度、健康管理について 4) 実習に向けての不安について(資料) *前半①グループ1)~4) 後半②グループ1) 2)
12月14日(火) 13:20~14:50	中講義室	1) 施設における介護上の留意点 2) 実習に関する情報提供(例えば、実習プログラム等) 3) 実習目標について(資料;個人の目標) 4) 準備状態の把握(資料;実習前の達成課題) *前半①グループ1)~4) 後半②グループ1) 2) 1) 実習施設毎及び実習グループ毎のリーダーの決定 2) 事前訪問日時の調整法について
1月21日(金) 13:20~14:50	中講義室	1) 事前訪問による理解度の確認 (資料;施設事前訪問報告書・実習記録[2]) 2) 準備状態の確認(資料;達成課題技術経験録) *前半①グループ1) 2) 後半②グループ1)
2月3日(木) 9:00~12:00	中講義室	1) 学生個々の準備状態のより個別指導 *前半①グループ 後半②グループ
2月4日(金) 13:20~14:50	中講義室	2) 最終確認;全体 2) 学生個々の準備状態により個別指導

*上記の日程の調整がつかない先生は、事前に申し出てください。

2) 学生個人票について

11月末日迄に担当教員の先生が方にお渡ししますので、記載内容を確認の上、訂正がありましたら、個別指導をお願い致します。個人票は12月初旬の各施設訪問時間時に提出して下さい。

3) 施設訪問について

実習要綱・実習記録は、11月24日頃に各施設に事前に郵送の予定です。12月の初旬から中旬にかけて、指導要綱・記録をもとに指導者との調整の為に施設訪問をお願い致します。

資料

- (1) 実習迄の計画表 (2) 実習指導演習Ⅰ・Ⅱ指導計画 (3) 実習目標(個人)
(4) 実習前に達成すべき課題 (5) 施設事前訪問報告書

7) 事後指導について

一回生の第Ⅰ段階は34ヵ所（特別養護老人ホーム、身体障害者施設）で、90時間を45時間ずつに分けて、厚生省の規則通り実施した。

第Ⅰ段階の事後指導については、5月に実習報告会として実施した。方法は資料6に示す。

介護実習（第Ⅰ段階）報告会

実習指導演習 事後指導 （資料6）

目標) 実習での学びを共有し、Ⅱ段階実習に向けての学習課題を明らかにする。

期日) 平成12年5月23日（火） 15:00～16:30

場所) 中講義室（1～3グループ）

第2講義室（4～5グループ）

第3講義室（6～7グループ）

方法) 1) 小グループ制で行う。（グループ分けは下記参照）

2) 学生全員が学んだ事（学びの中で、他のメンバーにぜひ伝えたい事、感動した事、失敗から学んだ事等）をレポートし、3分以内で発表する。

3) 担当教員よりの助言・指導

時間配分) 15:00～15:10 グループ作りと出欠席チェック

15:10～15:45 学びの発表（レポートをもとに）

15:45～16:15 討議

16:15～16:30 助言・指導

レポート提出) 報告終了後に、発表に用いた原稿の下の空欄に、Ⅱ段階に向けての課題を記載し、コピーをして5/30（火）の授業時に提出のこと。

報告会の内容については、

(1) 各グループで意見交換をしたテーマ

- ①実習での気づき、伝えたいこと
- ②利用者との信頼を築く為のかかわり方
- ③実習期間中の業務内容の把握について
- ④コミュニケーションのとり方について
- ⑤相手の身になるとは

〈利用者との信頼を築く為のかかわり方のグループの報告会内容〉

発表の内容

1) 全員発表後、質疑応答

- ①利用者の特徴について
- ②障害者の不自由さについて
- ③学校で学習したことと施設との違いについて
- ④利用者の安全を守る為に施設で行っていること

話し合い（利用者との信頼関係を築く為のかかわり方）

- ①笑顔でかかわる
- ②相手が声をかけてくれるのを待つのではなく、自分から積極的に声かけをする
- ③元気な声ではっきりと
- ④一人一人の名前を覚え、特徴を知る
- ⑤介護の場面では自分でできることを探し、援助する
- ⑥言葉かけだけではなく、手を握ったりとスキンシップする

指導

- ①実習に臨む態度と実習の意義
- ②実習中の学習の仕方（理論と実践の総合の仕方）
- ③第Ⅰ段階の目標達成についての自己評価
- ④学生より質問（第Ⅱ・Ⅲ実習中の就職、進学活動時の欠席扱いについて）

学生事後報告の発表やレポートから特別養護老人ホームや身体障害者施設において利用者一人一人の特徴や性格を認識し把握することが大切であることを学んでいる。自己のふり返りとしても基礎をしっかり身につけ、利用者と触れ合って話をする中で徐々にコミュニケーションがとれることを実感した。コミュニケーションを通じて利用者の特徴を理解することが大切と思ったなどの学びが多かった。

このことから、第Ⅰ段階に学んでほしい施設特徴やコミュニケーションについては、学生間の能力の差が気になる部分もあり、また学生の自己満足的な評価もあることから、あくまでも利用者の立場で介護行為を気づかせるような指導が、第Ⅱ段階実習に向けて必要であると痛感した。

8) 第Ⅱ・第Ⅲ段階介護実習に向けての事前指導(表1参照)及び担当教員による事前指導(資料7)

第Ⅱ・第Ⅲ実習の期間が9月、10月続いていることから、第Ⅱ・第Ⅲの事前指導については2年次の前期に介護過程の事例展開を講義、演習実施した。第Ⅱ段階では、利用者の援助項目をあげ、利用者の特徴、援助内容をあげ、感想と考察を記載し、第Ⅲ段階に向けての準備とした。(資料8)

- ・個人目標(資料2)
- ・実習迄の個人チェック表(資料3)
- ・施設事前報告書(資料4) (資料2、3、4)は第Ⅰ段階と同様

介護実習Ⅱ・Ⅲむけての担当教員による事前指導について（資料7）

紫陽花が日ごとに色濃く染まる今日のごろ、忙しい日々をお過ごしのことと思います。Ⅱ・Ⅲ段階実習を控え、担当教員別に学生への指導を下記のように計画致しましたので、万障繰りあわせの上、出席方々ご指導を宜しくお願い致します。

記

(1) 事前指導

日 時	場所	指 導 項 目
7月4日（火） 15：00～16：30	中講義室	【Ⅱ段階実習】 1) 実習グループの顔合わせとリーダーの決定 2) 実習施設概況及び実習に関する情報提供 （施設概況、交通手段、指導者名、その他の情報提供） 3) 実習目標について 4) 実習への心構え、用紙、態度、健康管理について
7月18日（火） 15：00～16：30	中講義室	【Ⅲ段階実習】 1) 実習グループの顔合わせとリーダーの決定 2) 実習施設概況及び実習に関する情報提供 （施設概況、交通手段、指導者名、その他の情報提供） 3) 実習目標について
8月28日（月） 9：20～10：50	中講義室	【オリエンテーション】第Ⅱ段階実習 1) 事前訪問による理解度の確認 （資料…事前訪問報告書・実習記録 [2]） 2) 準備状態の確認 3) 健康診断・評価表の配布、実習記録返送用封筒の準備 4) 学生個々の準備状態により個別指導
9月30日（土） 9：20～10：50	中講義室	【オリエンテーション】 1) 事前電話による理解度の確認 2) Ⅱ段階実習の学びの確認と第Ⅲ実習個人目標について 3) 健康診断・評価表の配布、実習記録返送用封筒の準備 4) 学生個々の準備状態により個別指導

*上記日程の調整がつかない先生は、事前に申し出て下さい。

(2) 学生個人票について

6月末日までに担当教員の先生方にお渡ししますので、記載内容を確認の上、訂正がありましたら、個別に指導をお願い致します。

(3) 施設訪問について

学生名簿は各施設宛に7月中旬発送予定です。その後の、指導者との調整のために施設訪問をお願い致します。

援助技術記録（資料8）

月 日

氏名

援助項目	
利用者の特徴	
援助内容	
感想と考察	
指導助言	

9) 第Ⅲ段階介護過程の展開について

第Ⅲ段階の大きな目標である介護過程については、学生が教本として持っている健帛社の本を使用し、記録用紙も同様のものを使用した。(資料9)(資料10)(資料11)(資料12)

10) 第Ⅱ・第Ⅲ段階事後指導(11月実施)

テーマは、個別介護計画から評価までの介護過程の展開が実践できたか、自己の振り返りも含めて具体的な場面を通して発表し、レポートを提出させた。

学生は、社会福祉援助技術演習Ⅱの演習計画の中で個別援助技術(介護過程)の発表を予定していたことから、事後指導テーマと重なる部分があるため介護過程の報告書作成を事後指導とし、介護過程を提出させた。

添削指導は演習担当教員が行い社会福祉援助技術演習の時間に発表する形式をとった。

発表内容については、

- ①どのような利用者を受け持ったか
- ②受け持った動機
- ③利用者にとっての介護課題・問題点は何であったか
- ④大目標
- ⑤小目標
- ⑥具体的な実践場面を書き評価する

(資料9) 利用者の生活像 植草学園短期大学 No.1
 利用者氏名 性別 年齢 学生氏名

1. 施設の概要	5. 健康に対する考え方(利用者、施設側)
2. 現在の利用者を取り巻く生活環境	6. 家族とのつながり
3. 生活習慣	7. 現在の利用者の経済状況
4. 利用者の性格、特性	8. 過去の暮らし方

施設指導者印		担当教員印	
--------	--	-------	--

(資料10) 利用者の生活像 植草学園短期大学 No.2
 利用者氏名 性別 年齢 学生氏名

[主な疾患・障害名]	5. 現在の状態 【運動・移動】 【食事】 【排泄】 【清潔】 【身だしなみ】 【睡眠】 【意志の疎通】 【現在行われている治療・処置】 【平時のバイタルサイン】 【その他】
1. 身体的特徴	
2. 既往歴	
3. 入所のいきさつと現在までの経過	
4. 受け持つ動機	

施設指導者印		担当教員印	
--------	--	-------	--

(資料11) 介護計画 植草学園短期大学 No.3
 利用者氏名 性別 年齢 学生氏名

大目標	
-----	--

(月日) 情報	(月日) 情報の分析・統合	(月日) 小目標	(月日) 具体的援助内容

施設指導者印		担当教員印	
--------	--	-------	--

(資料12) 学生の行動計画 植草学園短期大学 No.4
 学生氏名

月日	計画内容	具体的方法・注意点とその理由	実施内容と結果(利用者の反応を含む)	評価

施設指導者印		担当教員印	
--------	--	-------	--

また、専攻会議において、第Ⅱ・Ⅲ段階介護実習のまとめを行った。

第Ⅱ・Ⅲ段階介護実習のまとめ

8/30～11/1までの実習教員が振り返り、感じたものを学生・施設・学校の3つの側面からまとめてみた。

学生側

- ①Ⅱ・Ⅲ段階の実習が進み、介護福祉士としての意欲が出てきた学生が多い。
- ②笑顔で実習していて好感を持たれたが、基礎知識を尋ねられた際答えられなかった。(バイタルサイトとは等)
- ③遅刻・欠席・挨拶・返事・報告などの基本的マナーにかける。
- ④「学ぶ者」としての心構えができていないためか、施設側への要望などをストレートに伝えてしまう。特に社会人学生とのグループは権利意識が強く、施設側が指導に戸惑っていた。
- ⑤連続の実習であったためか、疲れが目立った。同様に実習施設に通学するのに片道3時間もかかって疲れきっている学生もいた。
- ⑥宿泊した学生は基本的な生活習慣(飲酒・整理整頓・ポットの電源きり忘れなど)の点で指摘を受けた。またホームシックにかかり、実習に師匠をきたす学生も出た。
- ⑦日誌・介護記録がずさんで「短期大学であるから、さぞ記録はきちんととできると思っていたが。」と言われてしまった。

施設側

- ①良い施設内容を見せることが実習指導であると、日々の実践をがんばっている施設もあった。
- ②施設により指導にバラツキが見られる。(記録の時間・記録のコメント・カンファレンスの方法等)
- ③一部の施設では、学生を労働力ととらえているように見受ける。そのような施設は実習場面における教員の介入が難しかった。
- ④実習中に職員の退職が相次ぎ、寮母からの指導が不十分だった。
- ⑤受け入れ態勢の悪い実習先で学生がわからないところも聞けずおろおろしていた。

学校側

- ①他校に比較して巡回はしていたが(施設側の反応から)、施設・学校とも巡回指導役割についての理解不足があるように思う。
- ②対人関係のとり方が不得意の学生、強いこだわりがあった学生など、実習前から心配な学生の施設側への説明に苦慮した。

- ③記録・介護過程の学習など事前の準備不足が目立った。(2クラス合同ではなく、1クラス毎・教員間のポイントの確認等が必要)
- ④教員自身の実習に対する取り組みが甘かった。(施設と学生間にトラブルがあった所)
- ⑤実習が進むにつれて、学生も力がつきスムーズに展開すると思っていたが、逆に2、3ヶ所施設をまわることで批判的になり施設とのトラブルを起こす学生が多くなった印象がある。

上記反省点を踏まえ、今後についてまとめてみると

1. 実習期間の問題：第Ⅱ・Ⅲ段階の間に余裕がほしい。…平成13年度は1週間確保
2. 学生の生活態度の指導：①特に宿泊実習が必要な学生の場合は配慮が必要
 - ②実習前のオリエンテーションの強化
 - ③実習グループメンバー構成時の配慮
3. 振り返りの時間不足：①思考する余裕を与えるために帰港日を設定
4. 実習施設の改善：①実習施設との話し合いを持って、教育への理解を得る
 - ②実習環境の悪い施設は除いていく
5. 記録・介護過程学習の強化：①2クラス合同でなく、2クラス毎として充実を図る
 - ②学生の理解が高まるように具体的に指導する
6. 「学び」の充実と共有化：①実習後の指導の工夫を図り、学生の実習体験を通しての「学び」が深まるように指導する。

4. 考察

実習指導演習の目標・目的に添って施設介護実習を進めてきた。施設介護実習の必要性を理解させることから始まり、カリキュラムの中の実習の意味と重要性を理解してもらう為に、Ⅰ段階・Ⅱ段階・Ⅲ段階の実習課題(目標)を把握させた。各段階の目標と学生各自の実習への期待と自己目標を混同する学生も見られたが、忍耐強く学生の個別性(能力)に合わせ、目的意識の明確化(言語化、文章化して実習ノートに記載させる)を行った。時間のかかる学生もいたが、個別の学生の目的意識がしっかりできるまで実施した。

実習の心得については、教授方法を工夫した。教員が一方的に指導するのではなく、個人・グループワークを通して学生個々が実習の心得を導き出し、実習先で活用できるようウィンドウの「創造性の太陽」のシートを用い授業を試みた。現実の学生の行動を見ると専門職以前の社会人としての常識が不足しており、また、自己の考えで行動することが少ない環境に育っているため、実習に対する心構えを早い時期から行い、自ら考え行動できるようにと思い、指導を工夫し取り組んだことで、実習における予習・復習のあり方や実習への動機づけになっている。大切なことは、自らあげた項目を実際に行動に移すことであるが、これらの常識的な行動は短期間に身につくものではない、

夏休み前に授業を行うことで第Ⅰ段階の実習に向けて常識的な行動がきちんと取れてなおかつ、持続させていき、実習に望めるのではないかと考えている。また、夏休みにボランティア体験をする時にも役に立ったとの声が聞こえてきた。ボランティア体験の中で実際に行動に移すことが少しでもできたことは評価できる点である。

事前指導については、実習担当教員より巡回指導担当教員へ前もって事前指導の内容の詳細を資料で配布し、協力していただくことで教員全体の共有化ができたと思っている。

巡回指導内容は実習の進み具合、学生の実習への取り組み、態度、学校側の課題、施設からの協力がみられるかなどについて、実習訪問の中で学生と面接を行い、確認をとることで学生の実習状況を把握した。

巡回指導の回数は、各段階に応じて実習中2～4回の訪問を実施し、学生の心身の状況と実習の進捗状況を実習の中で把握した。

実習施設により、カンファレンスの方法・内容は様々であるが、学生が実習終了後提出する学びと課題から分析すると「技術面」は実習の中で技術の回数を重ねることで確実に実践し、技術の大切さを実習の中で学んでいる。利用者との信頼関係と日常生活を営む上で、どう築いていくか難しい課題である。また、施設の利用者だけでなく回りの人たちとの人間関係も大切であることも学んでいる。

課題については、各施設の実習方法内容により、多少の差はあるが、自己を振り返り、次の目標に向かって前向きな課題をあげていることは、現場実習の中で学ぶことを新鮮に受け止め、実習生として人間性あふれる人との接触を感じ、特に専門性のある介護(ケアワーク)の技術、また、個別援助技術(ケースワーク)と集団援助技術(グループワーク)の実践技術を課題にあげている。学生の学びを実習後の集団指導を通して、事後指導を行った。第Ⅰ段階では、ケアワーク技術を重点に行い、第Ⅱ・Ⅲ段階の事後指導は、ケースワーク技術を主としての事後指導となった。学生の反応は、介護過程の報告書を作成することに時間がかかり、後期の期末テスト、地域介護福祉研究と重なったことから時間的余裕がなく、大変な部分もあったが、提出し、発表したことで介護過程の理解が更に深まり学生の中では良い体験の一つとなっている。

5. おわりに

地域介護福祉専攻における実習指導演習は、施設実習を通して得たものを理論学習の成果と結びつけ、介護福祉士の専門家としての姿勢を形成していくその基礎となる大切な時間であると同時に学生として大きな学びとなっている。

教員側の福祉施設経験者は少なく、施設実習中でのアクシデント時の受け止め方の統一や、教員間での話し合いの時間的余裕もなく実習に入ってしまったことで教員間の連絡等が十分にできない状況もあった。初めて実習に出すという意識が強くなり、学生の個別性におおじての指導は、巡回

担当教員に詳細に説明し、学生の個別を把握した上での指導をお願いした。しかし、実習中の体験の生かし方については教員・施設指導者共に指導は充分とはいえなかった。学生の個人差もあるが、消極的な介護行動になることも多くあった。このような学生に対しては、校内での学びが達成可能なよに指導のレベルを持っていける個別的な指導の配慮が必要であると感じている。特に介護福祉という対人的・対面的なかわりを通して展開させる実習では利用者との人間関係が基本的となるため、実習中にこの関係の結びの基本を具体的に指導することが大切である。

実習指導演習は事前・実習中の指導・事後指導とあるが今回の指導は事前指導に大きなウェイトをかけた。実習中及び事後の指導についてはまだまだ補足する点が多くある。学生にとって実習が楽しくでき、そして介護福祉士としての自信と自負が持てるような実習内容にしたい。これからは実習を受け入れ施設と積極的に話し合いを持ち、学校側も学生個々が効果的に実習ができ、第Ⅲ段階実習終了時には、精神面・身体面・社会面においても進歩のあとがみられ、人間的にも成長している学生に育てることが大切である。これからも新しい出会いと共に、より良い実習ができるために研鑽を続け努力したい。

参考文献

- ・岡本千秋（1998）：介護福祉実習指導、メジカルフレンド
- ・一番ヶ瀬康子（1999）：社会福祉実習、一橋出版
- ・日本介護福祉教育学会（1999）：介護福祉教育、4（2）
- ・日本放送協会（1999）：NHK社会福祉セミナー、日本放送出版協会
- ・大阪府社会福祉協議会（1998）：施設実習マニュアル、中央法規
- ・日本介護福祉士会（1997）：事例研究テキスト、中央法規
- ・高橋実（1999）：みえないってどんなこと、一橋出版
- ・日本介護福祉士養成施設協会 神奈川連絡協議会（1996）：介護っていいなあ！、中央法規
- ・一番ヶ瀬康子（1998）：介護福祉士これでいいか、ミネルヴァ書房
- ・福祉実習連絡協議会（1998）：福祉実習の基礎と実際、中央法規
- ・介護福祉士実習指導研究会（1999）：介護福祉実習指導18、健帛社